

木造住宅耐震診断報告書

令和 7 年 7 月 日

耐震診断員

名称 HIRO HOUSE 一級建築士事務所

氏名 原口良裕 印

令和 7 年 6 月 26 日あなたのご自宅を耐震診断いたしました。結果は次のとおりです。なお、この報告書は調査時点での診断状況ですので、その後の経年劣化に対しては別途診断が必要となります。

I. 個別所見

①建物（上部構造）の耐震診断

上部構造評点		評 点 (○印)	判 定 (○印)
0.94	判 定	1. 5以上	倒壊しない
		1. 0～1. 5未満	一応倒壊しない
		0. 7～1. 0未満	倒壊する可能性がある
		0. 7未満	倒壊する可能性が高い

②地盤・地形・基礎の耐震評価

【地盤】

地盤	対策	記入欄 (○ 印)	注意事項
よい			丘陵地で、やや揺れにくい土地。
普通		○	
悪い (埋立地、盛土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている		
	杭基礎である		
	特別な対策を行っていない		

【地形】

地形	対策	記入欄 (○ 印)	注意事項
平坦・普通		○	平坦地だが、スロープ地
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積み		
	特別な対策を行っていない		

【基礎】

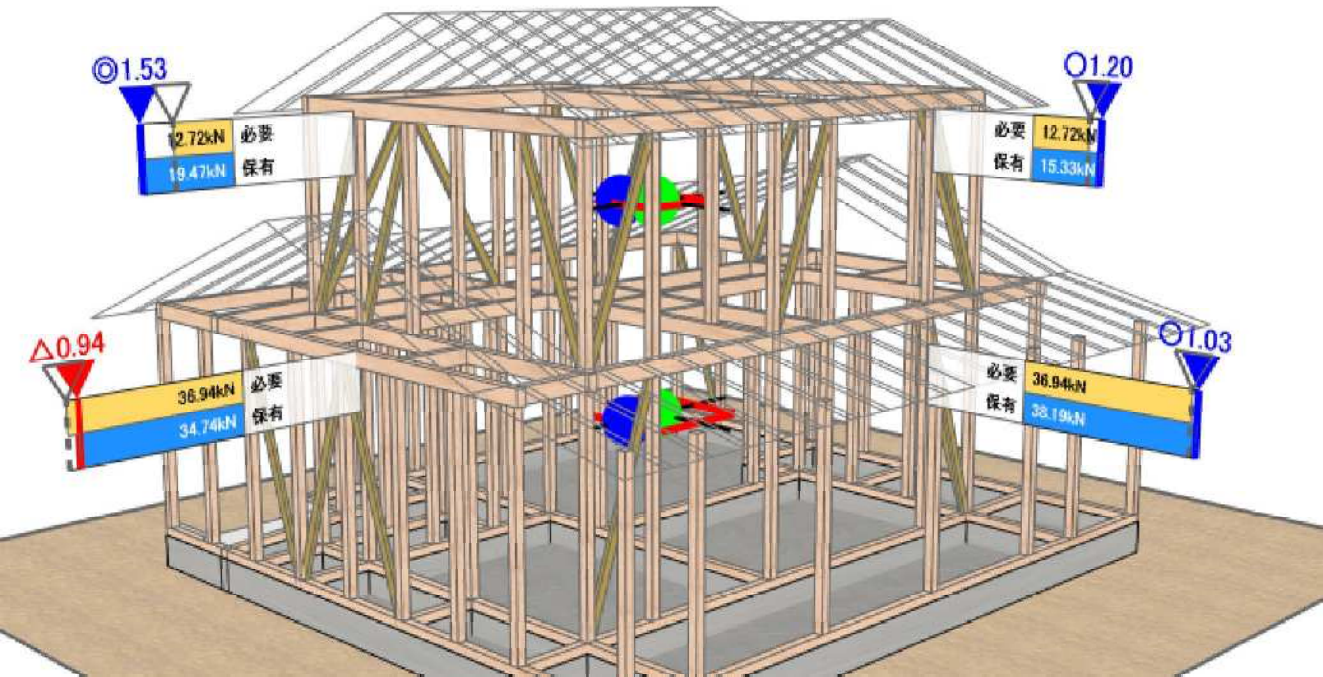
種類	対策	記入欄 (○ 印)	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全		束石の崩壊あり。対策必要。
	ひびわれが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全		
	ひびわれが生じている	○	
玉石基礎	足固めあり		
	足固めなし		
その他 (ブロック基礎等)			

Ⅱ. 総合所見

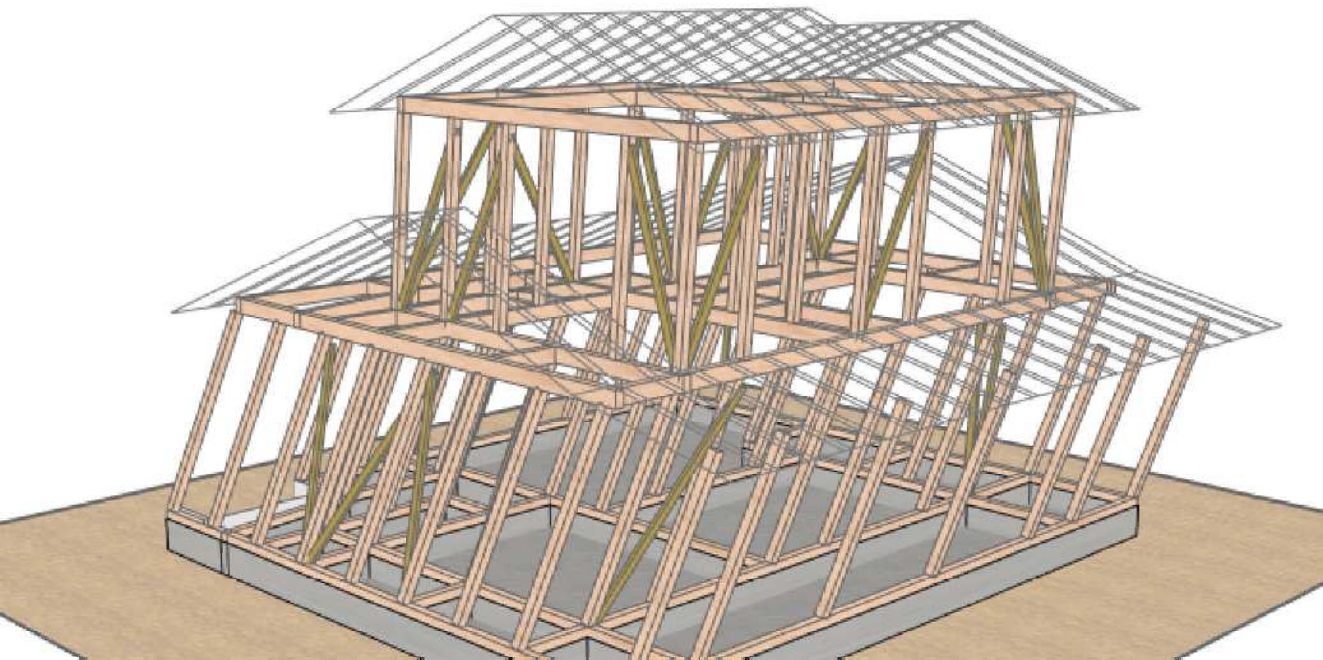
① 建物の現状
当該住宅は築後 50 年経過した軸組構法で建てられた瓦屋根の建物。外観は綺麗だが、床下は耐震的にも補修が必要。
② 耐震性の有無とその程度
正方形に近い形状は耐震的に有利。2 階は比較的強いが、1 階の X 方向は開口が多く、補強が若干必要。
③ 今回の診断では評価できない事項等
筋交いの記録はあるが、金物の取り付けがあれば耐力は更にある。
④ まとめ
X 方向の耐力を若干上げる必要がある。台所の壁を 2 枚を低コスト工法で耐震補強するのが良いと思われるが、それ以上に床下の健全化が耐震的にも望まれる。

※今回は「精密診断法」と呼ばれる方法で耐震診断を行いました。

通常時



被害想定 評点 0.94



現状
0.94

階	方向	剛性率 低減係数	偏心率 低減係数	保有耐力 (kN)	必要耐力 (kN)	上部構造 評点
2	X	1.00	1.000	19.47	12.72	◎ 1.53
	Y	1.00	1.000	15.33		○ 1.20
1	X	1.00	1.000	34.74	36.94	△ 0.94
	Y	1.00	1.000	38.19		○ 1.03

上部構造評点	判定内容	
1.5以上	倒壊しない	◎
1.0以上1.5未満	一応倒壊しない	○
0.7以上1.0未満	倒壊する可能性がある	△
0.7未満	倒壊する可能性が高い	×

上部構造
評点 = 保有耐力
必要耐力

現状

必要耐力 (Qr) 必要耐力
計算方法 略算法 精算法

階	床面積(m ²)	必要耐力係数	多雪区域加算	地震地域係数Z	軟弱地盤割増	形状割増	混構造割増	必要耐力Qr(kN)
2	26.50	0.60	0.00	0.80	1.00	1.00	1.00	12.72
1	68.04	0.59						36.94

保有耐力 (Qd)

階	方向	無開口壁耐力 (kN)	有開口壁耐力 (kN)	剛性率による 低減係数	偏心率と床の仕様 による低減係数 (偏心率)	保有耐力 Qd (kN)
2	X	16.56	2.91	1.00	1.000 (0.11)	19.47
	Y	13.13	2.20	1.00	1.000 (0.07)	15.33
1	X	32.52	2.22	1.00	1.000 (0.01)	34.74
	Y	35.21	2.98	1.00	1.000 (0.12)	38.19

木製筋かい 接合部	柱頭柱脚接合部	基礎仕様	壁劣化
☐ 接合部①(0) ☐ 接合部②(0) ☐ 接合部③(0) ☒ 接合部④(20)	☐ 接合部Ⅰ(0) ☐ 接合部Ⅱ(0) ☒ 接合部Ⅲ・Ⅳ(77)	☐ 基礎Ⅰ ☐ 基礎Ⅱ ☒ 基礎Ⅲ	☒ 劣化なし(91) ☐ 部分的な劣化(0) ☐ 著しい劣化(8)

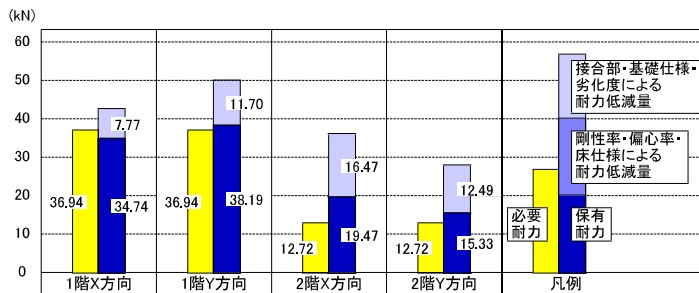
木製筋かい 接合部①	木製筋かい 接合部②	木製筋かい 接合部③	木製筋かい 接合部④	柱頭柱脚 接合部Ⅰ	柱頭柱脚 接合部Ⅱ	柱頭柱脚 接合部Ⅲ・Ⅳ	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
所定の 金物	2.0倍用金物 筋かいプレート (BP-2)以上	1.5倍用金物 筋かいプレート (BP)以上	釘打ち (2-N75程度) 以下	ホールダウン 金物など	羽子板 ボルト	山形 プレート	かど金物	ほぼ差し かすがい	基礎Ⅰ 基礎Ⅱ 基礎Ⅲ その他の 基礎

補強・改修をすると評点が上がります。

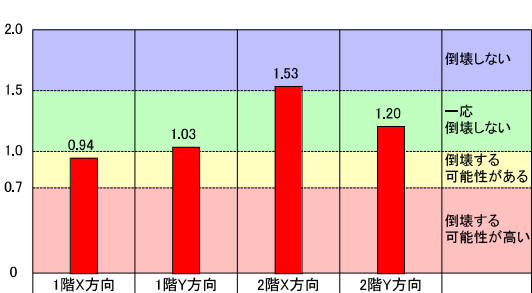
評点分析

1階X方向	1階Y方向	2階X方向	2階Y方向
基本壁量 (低減前) 偏心率と床仕様 柱頭柱脚接合部 木製筋かい接合部 基礎仕様 劣化度	基本壁量 (低減前) 偏心率と床仕様 柱頭柱脚接合部 木製筋かい接合部 基礎仕様 劣化度	基本壁量 (低減前) 偏心率と床仕様 柱頭柱脚接合部 木製筋かい接合部 基礎仕様 劣化度	基本壁量 (低減前) 偏心率と床仕様 柱頭柱脚接合部 木製筋かい接合部 基礎仕様 劣化度
評点: 0.94	評点: 1.03	評点: 1.53	評点: 1.20

必要耐力・保有耐力(kN)



上部構造評点



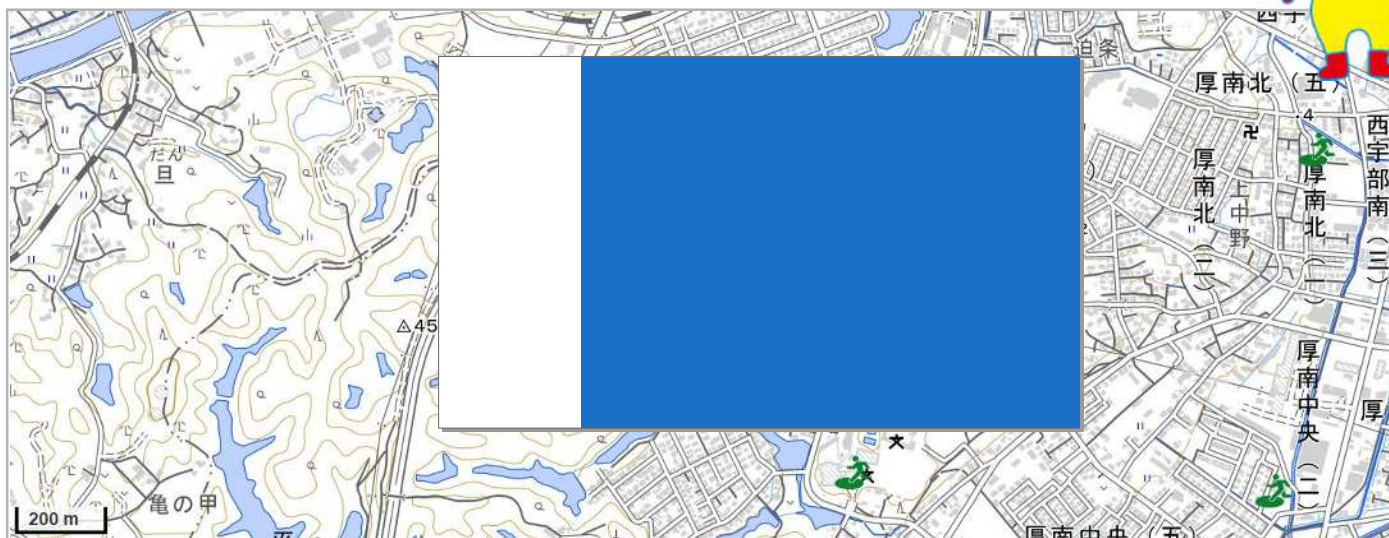
地盤サポートマップ

レポート

JHS公式キャラクター
ジャバわん



山口県宇部市大字東須恵付近



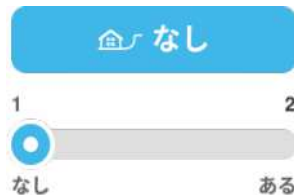
地震時の揺れやすさ



液状化の可能性



土砂災害の可能性



浸水の可能性

範囲外か未整備です

洪水浸水想定区域の範囲外です。お住まいの市区町村が公開しているハザードマップも併せてご確認ください。

近くの避難場所

厚南小学校

544m

公園

黒石街区公園

706m

地盤の基本情報

お住まいなどの建物の基礎を支える重要な地面。地盤を知って住まいづくりに役立てましょう

地形 … 丘陵

地質 … 新生代の堆積岩。堆積岩は、礫や砂、泥などの堆積物が固結してできた岩石です。地球表層を広く覆い、多くの場合、地層を形成します。

地盤をチェックした後は、お住まいの保障も確認しませんか？



こくみん共済 coop の災害に備える保障

住まいる共済

火災共済・自然災害共済
風水害等給付金付火災共済・自然災害共済・借入賠償責任共済



※地盤サポートマップは、ジャパンホームシールドが提供するサービスです。記載された対象土地の情報について、その内容を保証するものではありません。詳しくは専門家(宅地建物取引士、建築士など)にご相談ください。本レポートを利用したことにより現に発生または発生しうる損害について、こくみん共済 coop およびジャパンホームシールド株式会社は一切責任を負いません。本レポートが提供する内容は、「SuperBaseMap25000 プレミアム」(日本スーパーマップ社)により構成されたものです。

こくみん共済 NEWS

(25.05.KKC-03)

こくみん共済 coop
公式キャラクター
ビットくん



たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済
全国労働者共済生活協同組合連合会

建てるを支える。
住まうを想う。



Copyright© JAPAN HOME SHIELD CORPORATION All Right Reserved

■診断する建物が、次の建築歴史の中でどの位置にあるかを調べます。

◎大正 08 年(1919 年)【市街地建築物法】

が制定され、建築基準法の前身。

○大正 12 年(1923 年)＜関東大震災 M7.9＞

○昭和 16 年(1941 年～1946 年)第二次世界大戦、資材不足、法律は休眠状態

◎昭和 25 年(1950 年)【建築基準法制定】

地震力に対する必要壁量が制定。

○昭和 43 年(1968 年)＜十勝沖地震 M7.9＞

◎昭和 46 年(1971 年)【基準法改正】

木造基礎は鉄筋コンクリート造の布基礎定め。

○昭和 53 年(1978 年)＜宮城県沖地震 M7.9＞

<<<1979 年 5 月竣工の診断建物は、この時代の建築法規の下で竣工>>>

宮城県沖地震の翌年の建物で、基礎はコンクリートで、基準法制定後で新耐震基準の前なので、一応の耐力はあるだろうが、十分なものではないことが推定できます。この情報を頭に入れて現地を調査します。

◎昭和 56 年(1981 年)【新耐震基準】

必要壁量改定、壁種類と倍率改定

○平成 07 年(1995 年)＜阪神大震災 M7.3＞

◎平成 12 年(2000 年)【住宅品質確保促進法制定】柱や筋交い端部は金物による接合が定められる。偏心の検討。(N 値計算：耐力壁周辺の柱頭柱脚接合部の検証法、4 分割法：耐力壁の適切配置の検証)

◎平成 16 年(2004 年)【木造住宅の耐震診断と補強方法】

○平成 17 年(2005 年)構造計算書偽装事件

(姉齒事件)

◎平成 19 年(2007 年)【瑕疵担保責任履行法公布】

○平成 23 年(2011 年)＜東日本大震災 M9.0＞

◎平成 24 年(2012 年)【木造住宅の耐震診断と補強方法の改訂】

○平成 28 年(2016 年)＜熊本地震 M7.3,M6.5＞

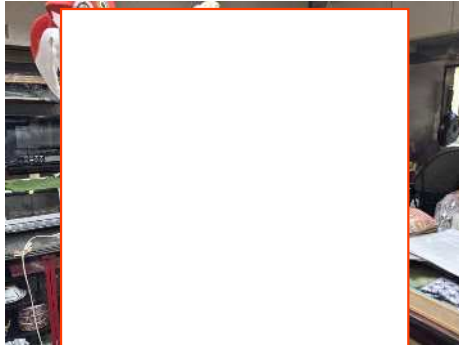
のような変遷があります。

現地調査

日付: 2025年07月03日 22:41:01

建物コード: 002504

鎌田弘二様 耐震診断



No.1
内部: 台所3.JPG
台所



No.2
内部: 台所2.JPG
台所



No.3
内部: 台所5.JPG
台所: 耐震補強候補



No.4
内部: 台所4.JPG
台所: 耐震補強候補



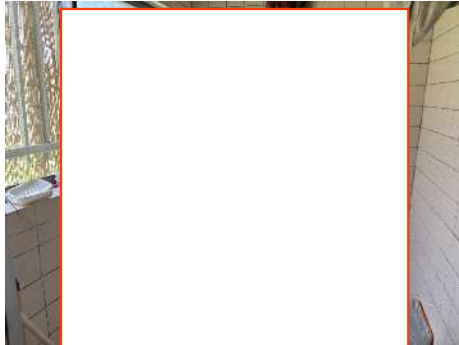
No.5
内部: 和室1.JPG
床の間

現地調査

日付: 2025年07月03日 22:41:01

建物コード: 002504

鎌田弘二様 耐震診断



No.6

内部: 浴室.JPG

タイル張り。大きなひび割れはない。



No.7

内部: 床下6.JPG

土台が薄い。束石としてブロックを使用。



No.8

内部: 洗面.JPG

洗面



No.9

内部: 台所.JPG

台所



No.10

内部: 床下1.JPG

束石が崩れている。地震時に転ぶ

精密診断法1

現状

耐震診断（精密診断法1）

建物名 耐震診断

1. 総合評価

2. 上部構造評点

~~3. 建物重量の計算~~ （必要耐力を建築基準法施行令に準じて求める場合のみ）

4. 壁保有耐力・剛性

~~5. 柱保有耐力・剛性~~ （伝統的構法のみ）

6. 保有耐力・低減係数

7. 偏心率計算表

8. 偏心率計算表（明細）

9. 平均床倍率計算表

精密診断法1平面図

精密診断法1平面図（壁材種表示）

精密診断法1平面図（平均床倍率）

HIRO HOUSE 一級建築士事務所

山口県宇部市文京町4-44

090-2002-4172

注意事項

- 本ソフトウェアは、一般財団法人 日本建築防災協会発行の2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の精密診断法1に準拠した結果を出力しています。
- 2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の精密診断法は、一般診断法において、補強が必要と判定された場合に、補強の要否の最終的な診断を行うことを目的としています。
- 2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」では診断の対象とする地震を、建物がその耐用年数の間にごくまれに遭遇するかもしれない大地震動としています。
- 地震被害想定3次元CGは、“精密診断法1”による評点を用いて住宅の耐震性能を表現しておりますが、実際の地震に遭遇したときの倒壊状況を正確に表現しているわけではありません。このため、地震被害想定3次元CGでは結果が過大に表現される場合があります。
- 本ソフトの診断結果に問題がなくても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

精密診断法1

1. 総合評価-(1)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

建物概要

調査日	2025年06月26日	診断者	原口良裕		
建物コード	002504	建築地	宇部市際波431ー22		
建物名		建物用途	住宅		
		備考			
竣工年月	1975年12月（昭和50年）	多雪区域区分	一般	係数	0
築年数	築10年以上	地震地域係数Z	0.80	係数	0.80
構法	在来軸組構法	建物重量	重い建物		
外壁材種	窯業系サイディング横張	混構造割増	木造	係数	1.0
外壁材基準耐力	0.80（kN/m）	軟弱地盤割増	軟弱地盤ではない。	係数	1.0
2階床面積	26.50㎡（8.02坪）	地盤種別	第2種地盤		
1階床面積	68.04㎡（20.58坪）	基礎仕様	Ⅲ ひび割れのある無筋コンクリート基礎		
階高	1階:2740mm 2階:2460mm	必要耐力計算方法	必要耐力表を用いる方法		
2階短辺長さ	4m以上 6m未満	必要耐力割増	1階:1.00 2階:1.00		
1階短辺長さ	6m以上				

水平構面仕様

部 位	仕 様	床倍率
2階 屋根下地	矩勾配以下、構造用合板9mm以上又は構造用パネル1・2・3級、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.50
2階 桁梁構面	火打ち金物HB、または木製90×90、平均負担面積5.0㎡以下、梁背105以上	0.15
2階 床下地	幅180杉板12mm以上、根太@340以下転ばし、N50@150以下	0.30
1階 屋根下地	5寸勾配以下、幅180杉板9mm以上、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.20
1階 桁梁構面	火打ち金物HB、または木製90×90、平均負担面積5.0㎡以下、梁背150以上	0.18

各部の劣化度、接合部仕様

劣化度

劣化無し	部分的な劣化	著しい劣化
91箇所	0箇所	8箇所

柱頭・柱脚接合部の仕様

I) 平成12建告1460号に適合する仕様	II) 3kN以上(羽子板ボルト、山形プレート等)	III、IV) 3kN未満(短ほぞ差し、かすがい打)
0箇所	0箇所	77箇所

木製筋かい接合部の仕様

所定の金物	2.0倍用金物以上(筋かいプレートBP-2)	1.5倍用金物(筋かいプレートBP)	釘打ち(2-N75程度)以下
0箇所	0箇所	0箇所	20箇所

精密診断法1

1. 総合評価-(2)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

各部の評価

①地盤の崩壊等				選択
敷地が傾斜地で、敷地内に盛り土、切り土部分がある。				
建物周囲に、1.5m以上の擁壁がある。				
付近は液状化の可能性があると言われている地域である。				
田畑の造成地で、造成後5年以内である。				
河川・湖沼・池などの埋立地である。				
スウェーデン式サウンディング試験等で、地耐力30kN/m ² 以下の層が3m以上ある。				
②基礎の破損・亀裂等				
地盤の種類	杭基礎、布基礎、べた基礎		玉石、石積み、ブロック基礎など	
	鉄筋が入っている	鉄筋が入っていない		
良い・普通の地盤	安全である。	● ひび割れが入る恐れがある。	玉石などが移動したり、傾く可能性がある。	
悪い地盤	ひび割れが入る恐れがある。	亀裂が入る恐れがある。	玉石などが移動したり、傾く可能性がある。	
非常に悪い地盤	ひび割れが入る恐れがある。 住宅が傾く可能性がある。	大きな亀裂が入る恐れがある。 住宅が傾く可能性が高い	玉石などが移動したり、不陸が生じる。 住宅が傾く可能性が高い。	
③水平構面(床や屋根)の損傷				選択
平面形に凹凸が多い。				
2階又は3階が荒板などの床で、住宅幅の1/2以上の大きさの吹き抜けがある。				
短辺が4mを超える大きな吹き抜けがある。				
2階の直下に壁がない外周壁が2面以上ある。(ただし、枠組壁工法の場合を除く)				
部分2階建てで、2階の直下部分に壁が少ない。				
④柱の折損(*伝統的構法の場合のみ)				本数
問題となる柱の本数				—
⑤横架材接合部の外れ				選択
12畳以上の大きな部屋がある。				
母屋部分より、下屋部分に壁が多い。				
羽子板ボルトなどの横架材接合部に補強金物がない。				
⑥屋根葺き材の落下の可能性				
屋根葺き材の仕様			損傷の可能性	選択
瓦等	棟瓦	補強棟	脱落の可能性は小さい	●
		それ以外	脱落の可能性が大きい	
	平瓦	全てを留めつけ	安全です	
		3～4段毎の留めつけ	一応安全です	●
		留めつけなし	脱落の可能性がある	
金属板葺き			安全です	

その他の問題報告

部 位	所 見
①地盤の崩壊等	丘陵地、特に問題なし
②基礎の破損・亀裂等	束石の補修、取り替え、基礎補修が望まれる。
③水平構面(床や屋根)の損傷	2階の直下、食堂に一部に壁のない箇所あり。
④柱の折損 (伝統構法のみ)	—
⑤横架材接合部の外れ	特に問題なし。鋼製火打ちが確認できる。
⑥屋根葺き材の落下	瓦を葺き替え時、屋根下地は合板となっている。特に問題なし

精密診断法1

1. 総合評価-(3)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

上部構造評点 = 保有耐力(edQu) / 必要耐力(Qr)

階	方向	壁耐力 合計 (kN) Qu	剛性率 低減 Fs	偏心率・ 床仕様 低減Fe	保有耐力 (kN) edQu	必要耐力 (kN) Qr	評点 edQu/Qr	グラフ
2	X	19.47	1.00	1.000	19.47	12.72	1.53	
	Y	15.33	1.00	1.000	15.33		1.20	
1	X	34.74	1.00	1.000	34.74	36.94	0.94	
	Y	38.19	1.00	1.000	38.19		1.03	

<地震被害想定3次元CG>



総合評価 (建築基準法の想定する大地震動での倒壊の可能性)

上部構造評点 のうち最小の値	評点	判定
0.94	1.5以上	◎倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○一応倒壊しない
	0.7以上～1.0未満	△倒壊する可能性がある
	0.7未満	×倒壊する可能性が高い

<その他注意事項>

1階X方向の補強が必要。まずは床下の補修。

精密診断法1

2. 上部構造評点

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

上部構造評点 = 保有耐力 (edQu) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	壁耐力 合計 (kN) Qu	剛性率 低減 Fs	偏心率・ 床仕様 低減Fe	保有耐力 (kN) edQu	必要耐力 (kN) Qr	評点 edQu/Qr	グラフ 0.7 1.0 1.5	判定
2	X	19.47	1.00	1.000	19.47	12.72	1.53		◎ 倒壊しない
	Y	15.33	1.00	1.000	15.33		1.20		○ 一応倒壊しない
1	X	34.74	1.00	1.000	34.74	36.94	0.94		△ 倒壊する可能性がある
	Y	38.19	1.00	1.000	38.19		1.03		○ 一応倒壊しない

必要耐力 (Qr)

(必要耐力係数を乗じる方法)

階	床面積 (㎡)	① 床面積あたり 必要耐力 (kN/㎡)	② +	③ 多雪区域 割増	④ × 地震地域 係数 Z	⑤ × 軟弱地盤 割増	⑥ × 形状 割増	⑦ × 混構造 割増	⑧ × 必要耐力 割増	=	必要耐力 Qr
2	26.50	0.60		0.00	0.80	1.0	1.00	1.0	1.00		12.72
1	68.04	0.59					1.15	1.0	1.00		36.94

- ①【床面積】 (㎡)
 ②【床面積あたり必要耐力】 (kN/㎡) 建物の階数別、建物の重さ別(軽い建物、重い建物、非常に重い建物)
 ③【多雪区域割増】 多雪区域では、積雪深により積雪1mのとき0.26(kN/㎡)、積雪2mのとき0.52(kN/㎡)を加算する。
 ④【地震地域係数 Z】 令第88条に規定する地震地域係数(1.00, 0.90, 0.80, 0.70より選択) 多くの地域が1.00
 ⑤【軟弱地盤割増】 地盤が著しく軟弱と思われる敷地の場合は、【必要耐力】を1.5倍する。
 ⑥【形状割増】 いずれかの階の短辺の長さが6.0m未満の場合、その階を除く、下のすべての階の必要耐力を割増する。
 ⑦【混構造割増】 2階建てにおいて、1階部分が、鉄骨造または鉄筋コンクリート造の場合は、【必要耐力】を1.2倍する。
 ⑧【必要耐力割増】 診断者の判断により荷重や床面積を割増して考慮するための係数。

保有耐力 (edQu) = 保有耐力(修正前) × 剛性Fs × 偏心率と床仕様Fe

階	方向	① 保有耐力(修正前) (kN) 無開口壁耐力+有開口壁耐力 Qu	② × 剛性率による低減係数 Fs	③ × 偏心率と床仕様による 低減係数 Fe	=	保有耐力 (kN) edQu
2	X	19.47	1.00	1.000		19.47
	Y	15.33	1.00	1.000		15.33
1	X	34.74	1.00	1.000		34.74
	Y	38.19	1.00	1.000		38.19

①保有耐力(修正前)

* 在来軸組構法・枠組壁工法に対応した算出による

「基準耐力Fw」「有効長さL」「開口低減係数Ko」「その他の低減係数」の積の総和
 無開口耐力は、開口低減係数=1.0として算出
 >>> 詳細 帳票4. 壁保有耐力・剛性 - イ

②【剛性率による低減係数】(Fs)

木造の場合は、ほとんどの場合1.0。必要耐力、剛性より算定する。
 >>> 詳細 帳票6. 保有耐力 低減係数 - ハ

③【偏心率と床仕様による低減係数】(Fe)

偏心率0.15を超えると低減あり。 >>> 詳細 帳票6. 保有耐力 低減係数 - ニ

精密診断法1

現状

4. 壁保有耐力・剛性(1階X方向)

日付:2025年07月03日 21:38:25

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様							開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数				保有 耐力	保有 剛性			
			面1仕様		軸組仕様		主壁等		面2仕様		合計		開口 形状		一体 開口 番号	開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko	基礎 仕様			接合 仕様	接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	主壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw														
1	2	1.82	418	-	-	-	316	1.80	400	戸	○1	2.73	0.073	2.73	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.35	79			
2	3	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	窓	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
3	4	0.60	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1.000	0.60	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	0.82	182			
4	5	0.30	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1.000	0.30	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	0.41	91			
5	6	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.24	276			
6	7	1.82	418	-	-	-	316	1.80	400	窓	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
7	8	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	戸	○2	2.73	0.073	2.73	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.35	79			
8	9	1.36	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1.000	1.36	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.86	413			
11	-	0.60	316	-	-	-	316	2.00	400	無一戸	○3	1.51	0.132	1.51	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	△0.00	△0			
-	12	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
12	13	0.30	△316	-	-	-	△316	0.00	0	無	-	-	1.000	0.30	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0			
15	16	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	○4	1.82	0.109	1.82	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.39	79			
16	17	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
17	18	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	1.82	364			
20	21	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.70	*1.00	1.27	254			
21	22	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	1.82	364			
22	23	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	1.82	364			
23	24	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	1.82	364			
25	26	1.36	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	1.36	Ⅲ	Ⅳ	*0.70	*1.00	1.90	380			
28	29	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	1.82	364			
29	30	1.82	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	-	1.82	0.109	1.82	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	0.39	79			
30	31	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	1.82	364			
33	34	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.70	*1.00	1.27	254			
35	36	1.36	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	○5	1.36	0.147	1.36	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	△0.00	△0			
36	-	0.15	418	-	-	-	418	△0.00	△0	戸	-	-	-	-	-	-	-	-	0.00	0			
39	40	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.70	*1.00	1.27	254			
40	41	0.91	316	103'	1.0	-	316	3.90	790	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	0.75	0.80	2.66	539			
41	42	1.82	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	○6	4.55	0.066	3.00	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	0.39	79			
42	43	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
43	44	1.82	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
44	45	0.91	316	103'	1.0	-	316	3.90	790	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	0.75	1.00	2.66	539			
45	46	1.36	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	1.36	Ⅲ	Ⅳ	*0.70	*1.00	1.90	380			
47	48	0.91	316	-	-	-	418	1.80	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.24	276			
48	49	1.82	316	-	-	-	418	1.80	400	戸	○7	5.46	0.066	3.00	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.35	79			
49	50	1.82	316	-	-	-	418	1.80	400	戸	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
50	51	1.82	316	-	-	-	418	1.80	400	戸	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
51	52	0.91	316	-	-	-	418	1.80	400	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.24	276			
52	53	1.36	316	-	-	-	418	1.80	400	無	-	-	1.000	1.36	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.86	413			

壁基準耐力 Fw=面1基準耐力+面2基準耐力+軸組基準耐力×筋かい接合低減+土塗壁基準耐力 (基準剛性は耐力を剛性と読替)
 一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。

一体の開口部の保有耐力、保有剛性は○付きの行 (安全側となる仕様) で計算。

有効長さ L=長さ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)

保有耐力 =Fw×L×Ko×min(Kj,dKw) 保有剛性 =Sw×L×Ko×min(Kj,dKw)

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種

* : 大壁、胴縁下地の面

: 釘による補正有りの面

▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁

△ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁 (耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁

△ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無一戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁 (開口壁として扱われる)

▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁 (開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

1階X方向合計 34.74 7.185

イ ロ

精密診断法1

4. 壁保有耐力・剛性(1階Y方向)

日付:2025年07月03日 21:38:25

現状

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様							開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数				保有 耐力	保有 剛性			
			面1仕様		軸組仕様		土塗壁等		面2仕様		合計		開口 形状		一体 開口 番号	開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko	基礎 仕様			接合 仕様	接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	土塗壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw														
1	10	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.24	276			
10	15	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.24	276			
15	20	0.91	418	103	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.56	*1.00	1.88	402			
20	27	0.91	418	103	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.56	*1.00	1.88	402			
27	33	0.91	418	103	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.56	*1.00	1.88	402			
33	37	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.24	276			
37	39	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.24	276			
39	47	1.50	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1,000	1.50	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	2.05	456			
16	21	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	1.82	364			
21	34	1.82	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	○1	5.14	0.066	3.00	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	0.39	79			
34	40	1.82	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
40	48	1.50	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
2	11	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.70	*1.00	1.27	254			
18	23	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	1.82	364			
4	12	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.70	*1.00	1.27	254			
13	19	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.70	*1.00	1.27	254			
19	24	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	1.82	364			
24	28	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	1.82	364			
28	42	2.73	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	-	2.73	0.073	2.73	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	0.39	79			
25	31	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	-	0.91	0.219	0.91	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	0.39	79			
31	35	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	1.82	364			
35	38	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	1.00	1.00	1.82	364			
38	45	0.91	316	103	1.0	-	316	3.90	790	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅲ	0.75	1.00	2.66	539			
45	52	1.50	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	-	1.50	0.133	1.50	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.39	79			
9	14	0.91	316	103	1.0	-	418	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.56	*1.00	1.88	402			
14	26	1.82	316	-	-	-	418	1.80	400	窓	-	1.82	0.219	1.82	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.71	159			
26	32	0.91	316	-	-	-	418	1.80	400	無	-	-	1,000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	1.24	276			
32	36	0.91	316	-	-	-	418	1.80	400	窓	○2	2.73	0.146	2.73	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.71	159			
36	46	1.82	316	-	-	-	418	1.80	400	窓	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
46	53	1.50	316	-	-	-	418	1.80	400	無	-	-	1,000	1.50	Ⅲ	Ⅳ	*0.76	*1.00	2.05	456			

壁基準耐力 Fw=面1基準耐力+面2基準耐力+軸組基準耐力×筋かい接合低減+土塗壁基準耐力 (基準剛性は耐力を剛性と読替)
 一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。

一体の開口部の保有耐力、保有剛性は○付きの行 (安全側となる仕様) で計算。

有効長さ L=長さ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)

保有耐力 =Fw×L×Ko×min(Kj, dKw) 保有剛性 =Sw×L×Ko×min(Kj, dKw)

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種

* : 大壁、胴縁下地の面

: 釘による補正有りの面

▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁

△ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁 (耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁

△ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無→戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁 (開口壁として扱われる)

▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁 (開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

1階Y方向合計 38.19 8.019

イ ロ

精密診断法1

現状

4. 壁保有耐力・剛性(2階X方向)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様								開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数				保有 耐力	保有 剛性		
			面1仕様		軸組仕様		土塗壁等		面2仕様		合計		開口 形状	一体 開口 番号		開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko	基礎 仕様	接合 仕様			接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	土塗壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw														
1	2	1.36	418	103'	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1.000	1.36	-	Ⅳ	0.31	1.00	1.55	333			
2	3	1.36	418	103'	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1.000	1.36	-	Ⅳ	0.31	1.00	1.55	333			
3	4	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	窓	-	0.91	0.439	0.91	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.71	159			
5	6	1.36	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	-	1.36	0.147	1.36	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.39	79			
6	7	1.36	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	1.36	-	Ⅲ	0.70	1.00	1.90	380			
7	8	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	-	0.91	0.219	0.91	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.39	79			
8	9	0.91	418	103'	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			
9	10	0.91	418	-	-	-	316	1.80	400	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅲ	0.76	1.00	1.24	276			
10	11	0.91	418	103'	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			
14	15	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅳ	0.70	1.00	1.27	254			
19	20	0.91	316	103'	1.0	-	418	3.70	790	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			
20	21	1.82	316	-	-	-	418	1.80	400	窓	-	1.82	0.219	1.82	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.71	159			
21	22	0.91	316	103'	1.0	-	418	3.70	790	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			
22	23	1.82	316	-	-	-	418	1.80	400	窓	-	1.82	0.219	1.82	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.71	159			
23	24	0.91	316	103'	1.0	-	418	3.70	790	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			

壁基準耐力 Fw=面1基準耐力+面2基準耐力+軸組基準耐力×筋かい接合低減+土塗壁基準耐力 (基準剛性は耐力を剛性と読替)
一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。

有効長さ L=長さ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)

保有耐力 =Fw×L×Ko×min(Kj, dKw) 保有剛性 =Sw×L×Ko×min(Kj, dKw)

2階X方向合計 19.47 4.151

イ ロ

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種

* : 大壁、胴縁下の面

: 釘による補正有りの面

▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁

△ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁 (耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁

△ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無→戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁 (開口壁として扱われる)

▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁 (開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

精密診断法1

4. 壁保有耐力・剛性(2階Y方向)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様								開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数				保有 耐力	保有 剛性		
			面1仕様		軸組仕様		土塗壁等 種類		面2仕様		合計		開口 形状	一体 開口 番号		開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko	基礎 仕様	接合 仕様			接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	土塗壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw														
1	5	0.91	418	103'	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅳ	0.31	1.00	1.04	222			
5	12	0.91	418	103'	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			
12	16	1.82	418	-	-	-	316	1.80	400	窓	-	1.82	0.219	1.82	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.71	159			
16	19	0.91	418	103'	1.0	-	316	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			
2	6	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅳ	0.70	1.00	1.27	254			
7	14	1.82	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	-	1.82	0.109	1.82	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.39	79			
14	17	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅲ	0.70	1.00	1.27	254			
17	21	0.91	316	-	-	-	316	2.00	400	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅲ	0.70	1.00	1.27	254			
4	8	0.91	316	103'	1.0	-	418	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅳ	0.31	1.00	1.04	222			
8	15	1.82	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	○1	3.64	0.066	3.00	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.39	79			
15	22	1.82	316	-	-	-	316	2.00	400	戸	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
11	13	0.91	316	103'	1.0	-	418	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			
13	18	1.82	316	-	-	-	418	1.80	400	窓	-	1.82	0.219	1.82	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.71	159			
18	24	0.91	316	103'	1.0	-	418	3.70	790	無	-	-	1,000	0.91	-	Ⅲ	0.54	1.00	1.81	388			

壁基準耐力 Fw=面1基準耐力+面2基準耐力+軸組基準耐力×筋かい接合低減+土塗壁基準耐力 (基準剛性は耐力を剛性と読替)
 一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。

有効長さ L=長さ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)

保有耐力 =Fw×L×Ko×min(Kj, dKw) 保有剛性 =Sw×L×Ko×min(Kj, dKw)

2階Y方向合計 15.33 3.234

イ ロ

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種

* : 大壁、胴縁下の面

: 釘による補正有りの面

▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁

△ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁 (耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁

△ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無→戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁 (開口壁として扱われる)

▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁 (開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

精密診断法1

現状

4. 壁保有耐力・剛性(係数表)-(1) 日付: 2025年07月03日 21:38:25

使用壁材一覧

コード	材種	基準耐力 (kN/m)	基準剛性 (kN/rad./m)
103'	筋かい(30×90)(釘打ち)	1.90	390
316	ラスボード(7mm)	1.00	200
418	窯業系サイディング横張	0.80	200

※ 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種は網掛けで塗られて表示。

※ 筋かい耐力壁はシングルの値を表示。ダブルの場合はシングルを2倍にした値を適用。

精密診断法1

現状

4. 壁保有耐力・剛性(係数表)-(2) 日付:2025年07月03日 21:38:25

係数表

筋かい接合低減係数表

筋かい金物等	筋かいの要素基準耐力(kN/m)		
	3.0未満	3.0~5.0	5.0以上
所定の金物	1.0	1.0	1.0
2.0倍用金物以上	1.0	0.9	0.8
1.5倍用金物	0.9	0.8	0.7
釘打ち(2-N75程度)以下	0.8	0.7	0.6

開口低減係数表

開口の種類	開口低減係数
窓型	0.4/L
掃き出し	0.2/L

※Lは開口幅(上限3.0m)

注)「窓型」: 窓開口のこと。垂れ壁・腰壁がある開口で、開口高さが概ね600mmから1200mm程度のもの。

「掃き出し」: ドアや掃き出しの開口のこと。垂れ壁がある開口で、垂れ壁高さが360mm以上のもの。

胴縁下地壁 耐力・剛性 修正

大壁で胴縁下地の壁面の修正基準耐力は以下とする。

基準耐力 (kN/m)	修正基準耐力 (kN/m)	
	(1) 胴縁をN75@200以下	(2) (1)の仕様以外
2以下	基準耐力 × 1.0	基準耐力 × 3/4
2超 4以下	基準耐力 × $(-\frac{1}{8} \cdot \text{基準耐力} + 1.25)$	1.5
4超	3	

大壁で胴縁下地の壁面の修正基準剛性は以下とする。

(1) 胴縁をN75@200以下			(2) (1)の仕様以外		
1	1	1	1	1	1
修正基準剛性	=	基準剛性	修正基準剛性	=	基準剛性
		800			500

柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数

壁基準耐力が表の数値の中間の場合、その上下の壁基準耐力の低減係数から直線補間して算出する。

有開口壁の場合は、壁基準耐力は開口低減係数 K_o を乗じたものとする。

2階建ての2階、3階建ての3階

壁基準耐力 (kN/m)		2.0	3.0	5.0	7.0
接合部 仕様	I	1.0	1.0	1.0	1.0
	II	1.0	0.8	0.65	0.5
	III	0.7	0.6	0.45	0.35
	IV	0.7	0.35	0.25	0.2

2階建ての1階、3階建ての1階及び3階建ての2階

壁基準耐力 (kN/m)		2.0			3.0			5.0			7.0		
基礎仕様		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
接合部 仕様	I	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.6
	II	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6
	III	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
	IV	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6

※3階建ての2階の場合は、基礎の種類にかかわらず基礎仕様Iの欄を使用する。

平屋建て(2階建ての下屋部分を含む)

壁基準耐力 (kN/m)		2.0			3.0			5.0			7.0		
基礎仕様		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
接合部 仕様	I	1.0	0.85	0.7	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.7	1.0	0.8	0.7
	II	1.0	0.85	0.7	0.9	0.75	0.7	0.85	0.7	0.65	0.8	0.7	0.6
	III	1.0	0.85	0.7	0.9	0.75	0.7	0.85	0.7	0.65	0.8	0.7	0.6
	IV	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3

劣化低減係数表(壁)

最上階の場合(下屋部分を含む)

劣化の程度	壁基準耐力 (kN/m)			
	2.5未満	2.5~4.0	4.0~6.0	6.0以上
無し	1.0	1.0	1.0	1.0
部分的な劣化	0.85	0.7	0.6	0.6
著しい劣化	0.7	0.35	0.25	0.2

※壁基準耐力が1.0未満の場合は低減係数1.0とする。

最上階以外の場合

劣化の程度	壁基準耐力 (kN/m)			
	2.5未満	2.5~4.0	4.0~6.0	6.0以上
無し	1.0	1.0	1.0	1.0
部分的な劣化	1.0	0.9	0.8	0.8
著しい劣化	1.0	0.8	0.7	0.6

総合重心を求める際の係数表

建物の重さ	$\alpha 1$	$\alpha 2$
軽い建物	1.43	2.15
重い建物	2.00	2.60
非常に重い建物	3.23	2.85

精密診断法1

6. 保有耐力 低減係数

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

剛性率による低減係数(Fs)

①		②	③		⑤	⑥					
階	方向	必要耐力 Qr	/	剛性 Sw	=	層間変形角 rs	層間変形角 の逆数 rs	⇒	剛性率 Rs	⇒	剛性低減 Fs
2	X	12.72		4,151		0.00307	325.73		1.25		1.00
	Y			3,234		0.00394	253.80		1.07		1.00
1	X	36.94		7,185		0.00515	194.17		0.74		1.00
	Y			8,019		0.00461	216.91		0.92		1.00
				(X方向平均)		259.95	④ rs				
				(Y方向平均)	235.35						

①【必要耐力】 Qr

>>>詳細 帳票4.、帳票5. - イ、ロ

②【剛性】 Sw

>>>詳細 帳票4.、帳票5. - イ、ロ

③【層間変形角】

= 必要耐力 / 剛性

④【層間変形角の逆数の相加平均】 $\bar{rs}$ = ③の逆数の相加平均⑤【剛性率】 Rs = 層間変形角の逆数 rs / 層間変形角の逆数の相加平均 $\bar{rs}$

⑥【剛性率による低減係数】 Fs

式Fs

剛性率	剛性低減 Fs
0.6以上	1.0
0.6以下	1.0 / (2.0 - Rs / 0.6)

偏心率と床仕様による低減係数(Fe)

①		②	
階	方向	偏心率 Re	平均床倍率
2	X	0.11	0.65
	Y	0.07	
1	X	0.01	0.40
	Y	0.12	
			⇒
			偏心率と床仕様 による低減係数 Fe
			1.000
			1.000
			1.000
			1.000
			二

偏心率と床仕様による低減係数を求める表

平均床倍率 \ 偏心率	Re < 0.15	0.15 ≤ Re < 0.30	0.30 ≤ Re < 0.45	0.45 ≤ Re < 0.60	0.60 ≤ Re
1.0以上	1.00	1 / (3.33Re + 0.5)	(3.3 - Re) / (3 * (3.33Re + 0.5))	(3.3 - Re) / 6	0.450
0.5以上1.0未満			(2.3 - Re) / (2 * (3.33Re + 0.5))	(2.3 - Re) / 4	0.425
0.5未満			(3.6 - 2Re) / (3 * (3.33Re + 0.5))	(3.6 - 2Re) / 6	0.400

①【偏心率】

>>>詳細 帳票7. 偏心率計算表

②【平均床倍率】

>>>詳細 帳票9. 平均床倍率計算表

精密診断法1

7. 偏心率計算表

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

要素名	部位別要素名	計算式	計算値
床面積 (㎡)	1階床面積	1階外周内部の面積(必要耐力用の面積と異なる場合あり)	68.04
	2階床面積	2階外周内部の面積(必要耐力用の面積と異なる場合あり)	26.50
重心座標	1階重心(X座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) / 1\text{階床面積}$	4.32
	1階重心(Y座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) / 1\text{階床面積}$	3.94
	2階重心(X座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) / 2\text{階床面積}$	3.92
	2階重心(Y座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) / 2\text{階床面積}$	3.60
	総合重心(X座標) ※	$\{\alpha 1 \times \Sigma(1\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積}) + \alpha 2 \times \Sigma(2\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積})\} / (\alpha 1 \times 1\text{階床面積} + \alpha 2 \times 2\text{階床面積})$	4.19
	総合重心(Y座標) ※	$\{\alpha 1 \times \Sigma(1\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積}) + \alpha 2 \times \Sigma(2\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積})\} / (\alpha 1 \times 1\text{階床面積} + \alpha 2 \times 2\text{階床面積})$	3.82
耐震要素 (明細一い)	耐震要素(1階X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向剛性} \times \text{要素Y座標})$	27,311
	耐震要素(1階Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向剛性} \times \text{要素X座標})$	29,502
	耐震要素(2階X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向剛性} \times \text{要素Y座標})$	16,231
	耐震要素(2階Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向剛性} \times \text{要素X座標})$	11,947
剛性 (明細一あ)	剛性(1階X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向剛性})$	7,185
	剛性(1階Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向剛性})$	8,019
	剛性(2階X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向剛性})$	4,151
	剛性(2階Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向剛性})$	3,234
剛心座標	1階剛心(X座標)	耐震要素(1階Y方向) / 剛性(1階Y方向)	3.68
	1階剛心(Y座標)	耐震要素(1階X方向) / 剛性(1階X方向)	3.80
	2階剛心(X座標)	耐震要素(2階Y方向) / 剛性(2階Y方向)	3.69
	2階剛心(Y座標)	耐震要素(2階X方向) / 剛性(2階X方向)	3.91
偏心距離 (m)	1階偏心距離(X座標)	絶対値(1階剛心(X座標) - 総合重心(X座標))	0.51
	1階偏心距離(Y座標)	絶対値(1階剛心(Y座標) - 総合重心(Y座標))	0.02
	2階偏心距離(X座標)	絶対値(2階剛心(X座標) - 2階重心(X座標))	0.23
	2階偏心距離(Y座標)	絶対値(2階剛心(Y座標) - 2階重心(Y座標))	0.31
ねじり剛性 (明細一う)	1階ねじり剛性(X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向剛性} \times (\text{要素Y座標} - 1\text{階剛心(Y座標)})^2)$	48,638
	1階ねじり剛性(Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向剛性} \times (\text{要素X座標} - 1\text{階剛心(X座標)})^2)$	96,416
	1階ねじり剛性合計	1階ねじり剛性(X座標) + 1階ねじり剛性(Y座標)	145,054
	2階ねじり剛性(X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向剛性} \times (\text{要素Y座標} - 2\text{階剛心(Y座標)})^2)$	14,874
	2階ねじり剛性(Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向剛性} \times (\text{要素X座標} - 2\text{階剛心(X座標)})^2)$	21,714
	2階ねじり剛性合計	2階ねじり剛性(X座標) + 2階ねじり剛性(Y座標)	36,588
弾力半径	1階弾力半径(X方向)	平方根(1階ねじり剛性合計 / $\Sigma(1\text{階各要素X方向剛性})$)	4.49
	1階弾力半径(Y方向)	平方根(1階ねじり剛性合計 / $\Sigma(1\text{階各要素Y方向剛性})$)	4.25
	2階弾力半径(X方向)	平方根(2階ねじり剛性合計 / $\Sigma(2\text{階各要素X方向剛性})$)	2.96
	2階弾力半径(Y方向)	平方根(2階ねじり剛性合計 / $\Sigma(2\text{階各要素Y方向剛性})$)	3.36
偏心率	1階偏心率(X方向)	1階偏心距離(Y座標) / 1階弾力半径(X方向)	0.01
	1階偏心率(Y方向)	1階偏心距離(X座標) / 1階弾力半径(Y方向)	0.12
	2階偏心率(X方向)	2階偏心距離(Y座標) / 2階弾力半径(X方向)	0.11
	2階偏心率(Y方向)	2階偏心距離(X座標) / 2階弾力半径(Y方向)	0.07

※総合重心を求める際の係数 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ >> 4. 壁保有耐力・剛性(係数表)を参照

精密診断法1

8. 偏心率計算表(明細)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

[1階X方向]

属性	柱1	柱2	A Y座標	B 剛性 Sw	C 耐震要素 (剛性×座標) A*B	D 剛心Y座標 い/あ	E ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	2	7.87	79	622	3.80	1,308
壁	2	3	7.87	-	-	3.80	-
壁	3	4	7.87	182	1,432	3.80	3,014
壁	4	5	7.87	91	716	3.80	1,507
壁	5	6	7.87	276	2,172	3.80	4,571
壁	6	7	7.87	-	-	3.80	-
壁	7	8	7.87	79	622	3.80	1,308
壁	8	9	7.87	413	3,250	3.80	6,841
壁	11	-	6.96	0	0	3.80	0
壁	-	12	6.96	-	-	3.80	-
壁	12	13	6.96	0	0	3.80	0
壁	15	16	6.05	79	478	3.80	399
壁	16	17	6.05	-	-	3.80	-
壁	17	18	6.05	364	2,202	3.80	1,842
壁	20	21	5.14	254	1,306	3.80	456
壁	21	22	5.14	364	1,871	3.80	653
壁	22	23	5.14	364	1,871	3.80	653
壁	23	24	5.14	364	1,871	3.80	653
壁	25	26	5.14	380	1,953	3.80	682
壁	28	29	4.23	364	1,540	3.80	67
壁	29	30	4.23	79	334	3.80	14
壁	30	31	4.23	364	1,540	3.80	67
壁	33	34	3.32	254	843	3.80	58
壁	35	36	3.32	0	0	3.80	0
壁	36	-	3.32	0	0	3.80	0
壁	39	40	1.50	254	381	3.80	1,343
壁	40	41	1.50	539	809	3.80	2,851
壁	41	42	1.50	79	119	3.80	417
壁	42	43	1.50	-	-	3.80	-
壁	43	44	1.50	-	-	3.80	-
壁	44	45	1.50	539	809	3.80	2,851
壁	45	46	1.50	380	570	3.80	2,010
壁	47	48	0.00	276	0	3.80	3,985
壁	48	49	0.00	79	0	3.80	1,140
壁	49	50	0.00	-	-	3.80	-
壁	50	51	0.00	-	-	3.80	-
壁	51	52	0.00	276	0	3.80	3,985
壁	52	53	0.00	413	0	3.80	5,963
				7,185	27,311		48,638
				あ	い		う

精密診断法1

8. 偏心率計算表(明細)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

[1階Y方向]

属性	柱1	柱2	A X座標	B 剛性 Sw	C 耐震要素 (剛性×座標) A*B	D 剛心X座標 い/あ	E ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	10	0.00	276	0	3.68	3,737
壁	10	15	0.00	276	0	3.68	3,737
壁	15	20	0.00	402	0	3.68	5,444
壁	20	27	0.00	402	0	3.68	5,444
壁	27	33	0.00	402	0	3.68	5,444
壁	33	37	0.00	276	0	3.68	3,737
壁	37	39	0.00	276	0	3.68	3,737
壁	39	47	0.00	456	0	3.68	6,175
壁	16	21	0.91	364	331	3.68	2,792
壁	21	34	0.91	79	72	3.68	606
壁	34	40	0.91	-	-	3.68	-
壁	40	48	0.91	-	-	3.68	-
壁	2	11	1.82	254	462	3.68	878
壁	18	23	2.73	364	994	3.68	328
壁	4	12	3.34	254	848	3.68	29
壁	13	19	3.64	254	925	3.68	0
壁	19	24	3.64	364	1,325	3.68	0
壁	24	28	3.64	364	1,325	3.68	0
壁	28	42	3.64	79	288	3.68	0
壁	25	31	7.28	79	575	3.68	1,023
壁	31	35	7.28	364	2,650	3.68	4,717
壁	35	38	7.28	364	2,650	3.68	4,717
壁	38	45	7.28	539	3,924	3.68	6,985
壁	45	52	7.28	79	575	3.68	1,023
壁	9	14	8.65	402	3,477	3.68	9,929
壁	14	26	8.65	159	1,375	3.68	3,927
壁	26	32	8.65	276	2,387	3.68	6,817
壁	32	36	8.65	159	1,375	3.68	3,927
壁	36	46	8.65	-	-	3.68	-
壁	46	53	8.65	456	3,944	3.68	11,263
				8,019	29,502		96,416
				あ	い		う

8. 偏心率計算表(明細)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

[2階X方向]

属性	柱1	柱2	A	B	C	D	E
			Y座標	剛性 Sw	耐震要素 (剛性×座標) A*B	剛心Y座標 い/あ	ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	2	6.05	333	2,015	3.91	1,525
壁	2	3	6.05	333	2,015	3.91	1,525
壁	3	4	6.05	159	962	3.91	728
壁	5	6	5.14	79	406	3.91	119
壁	6	7	5.14	380	1,953	3.91	574
壁	7	8	5.14	79	406	3.91	119
壁	8	9	5.14	388	1,994	3.91	587
壁	9	10	5.14	276	1,419	3.91	417
壁	10	11	5.14	388	1,994	3.91	587
壁	14	15	3.32	254	843	3.91	88
壁	19	20	1.50	388	582	3.91	2,253
壁	20	21	1.50	159	239	3.91	923
壁	21	22	1.50	388	582	3.91	2,253
壁	22	23	1.50	159	239	3.91	923
壁	23	24	1.50	388	582	3.91	2,253
				4,151	16,231		14,874
				あ	い		う

精密診断法1

8. 偏心率計算表(明細)

日付: 2025年07月03日 21:38:25

現状

[2階Y方向]

属性	柱1	柱2	A X座標	B 剛性 Sw	C 耐震要素 (剛性×座標) A*B	D 剛心X座標 い/あ	E ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	5	0.91	222	202	3.69	1,715
壁	5	12	0.91	388	353	3.69	2,998
壁	12	16	0.91	159	145	3.69	1,228
壁	16	19	0.91	388	353	3.69	2,998
壁	2	6	2.28	254	579	3.69	504
壁	7	14	3.64	79	288	3.69	0
壁	14	17	3.64	254	925	3.69	0
壁	17	21	3.64	254	925	3.69	0
壁	4	8	4.55	222	1,010	3.69	164
壁	8	15	4.55	79	359	3.69	58
壁	15	22	4.55	-	-	3.69	-
壁	11	13	7.28	388	2,825	3.69	5,000
壁	13	18	7.28	159	1,158	3.69	2,049
壁	18	24	7.28	388	2,825	3.69	5,000
				3,234	11,947		21,714
				あ	い		う

精密診断法1

現状

9. 平均床倍率計算表

日付: 2025年07月03日 21:38:25

平均床倍率の計算

1階天井レベル

部位	床倍率	面積 (㎡)	床倍率 × 面積
2階床	0.48	24.43	11.73
下屋	0.38	41.54	15.78
階段・吹抜	0.00	2.07	0.00
合計		68.04	27.51

①

②

1階平均床倍率
② ÷ ①

0.40

2階天井レベル

部位	床倍率	面積 (㎡)	床倍率 × 面積
屋根	0.65	26.50	17.22
合計		26.50	17.22

③

④

2階平均床倍率
④ ÷ ③

0.65

部位ごとの水平構面仕様明細

部位	構面	仕様	床倍率	合計
2階床	床	幅180杉板12mm以上、根太@340以下転ばし、N50@150以下	0.30	0.48
	桁梁	火打ち金物HB、または木製90×90、平均負担面積5.0㎡以下、梁背150以上	0.18	
1階下屋	屋根	5寸勾配以下、幅180杉板9mm以上、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.20	0.38
	桁梁	火打ち金物HB、または木製90×90、平均負担面積5.0㎡以下、梁背150以上	0.18	
2階屋根	屋根	矩勾配以下、構造用合板9mm以上又は構造用パネル1・2・3級、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.50	0.65
	桁梁	火打ち金物HB、または木製90×90、平均負担面積5.0㎡以下、梁背105以上	0.15	

精密診断法1
現状

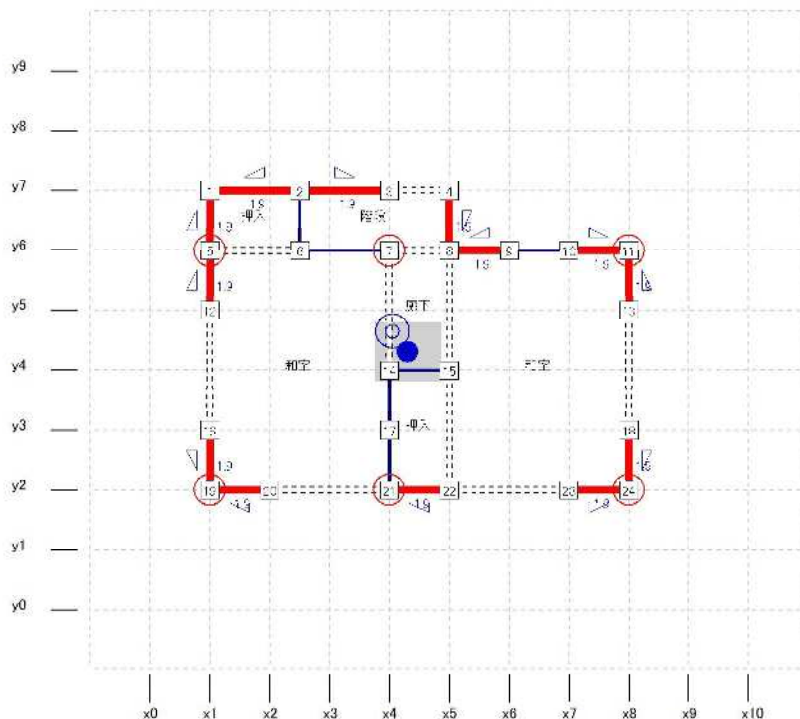
上部構造評点
0.94

精密診断法1平面図

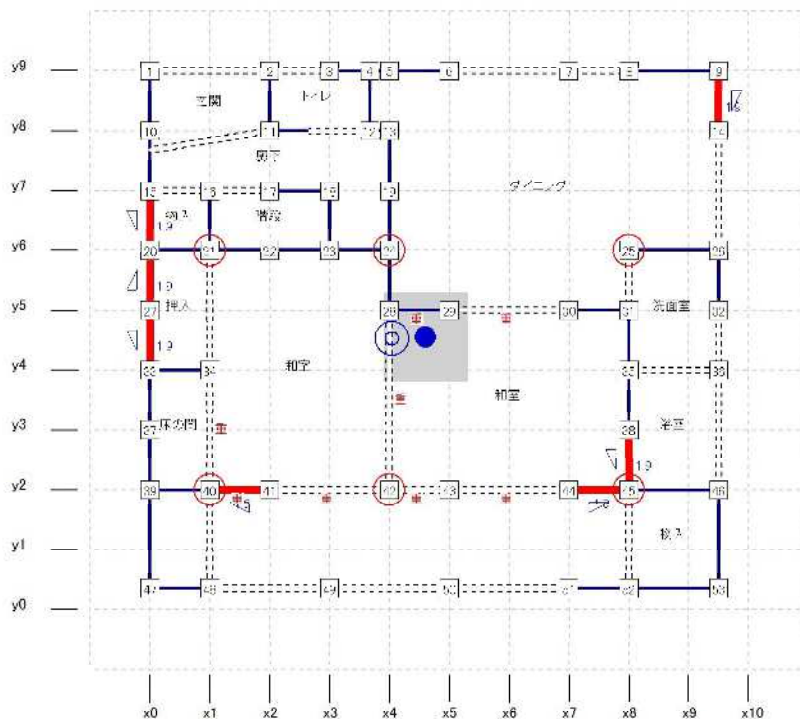
日付: 2025年07月03日 21:38:25

建物ID: 000504

2階 評点 X方向:1.53 Y方向:1.20



1階 評点 X方向:0.94 Y方向:1.03



縮尺 1/110

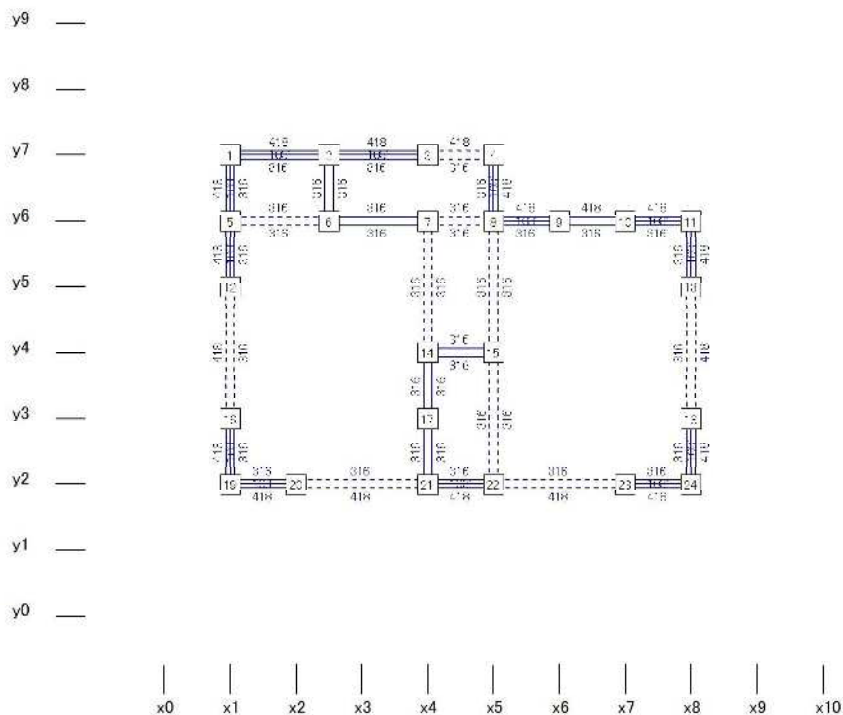
凡例

- 一般壁 (Solid blue line)
- 開口部 (Dashed blue line)
- 耐力壁 (Thick red line)
- バルコニー (Hatched blue area)
- 小屋裏収納等 (Hatched green area)
- オーバーハング (Hatched green area)
- 柱 (Square with dot)
- 通し柱 (Circle with dot)
- 重心 (Blue dot)
- 剛心 (Circle with cross)
- 偏心率0.15範囲(剛心が内側にあれば低減無し) (Shaded gray area)
- 軽重:劣化部位 (Blue dot)
- 筋かいシングル (Blue line with triangle)
- 筋かいダブル (Blue line with double triangle)
- 面材耐力壁 (Thick blue line)
- 部分入力雑壁 (Dashed blue line)
- I II 柱接合部 I, II (Blue line with I, II)

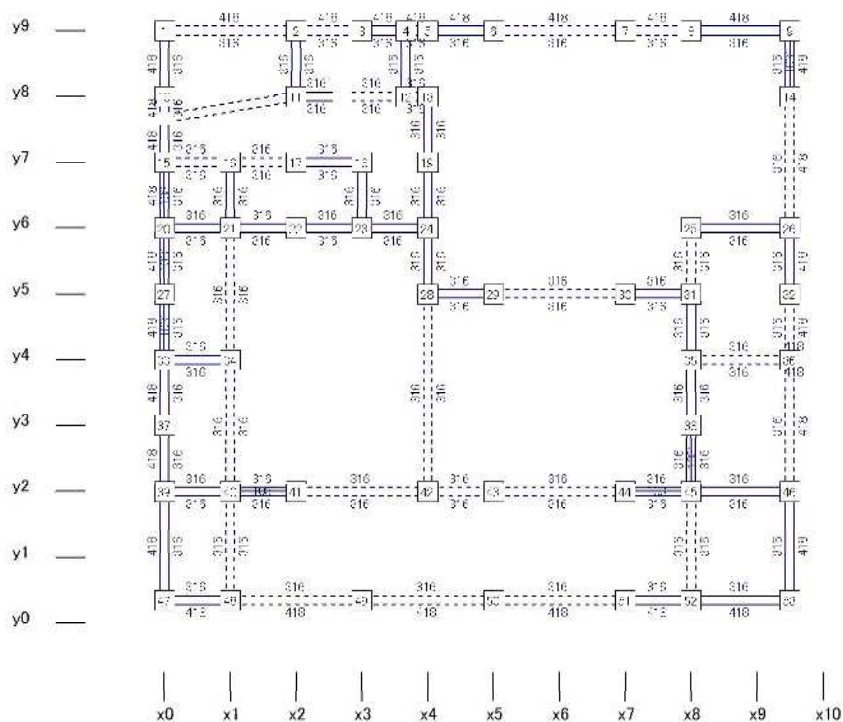
精密診断法1
現状

精密診断法1平面図(壁材種表示) 日付: 2025年07月03日 21:38:25

2階



1階



縮尺 1/100

※壁材種コードに「-1、-2、…」が付いている壁材種は耐力に低減・補正がかかっている(内訳は使用壁材一覧参照)

凡例 ■ 無開口壁(面1、軸組、面2)

■■ 開口壁(面1、軸組、面2)

□ 柱

壁材種コード 103: 筋かい(30×90)

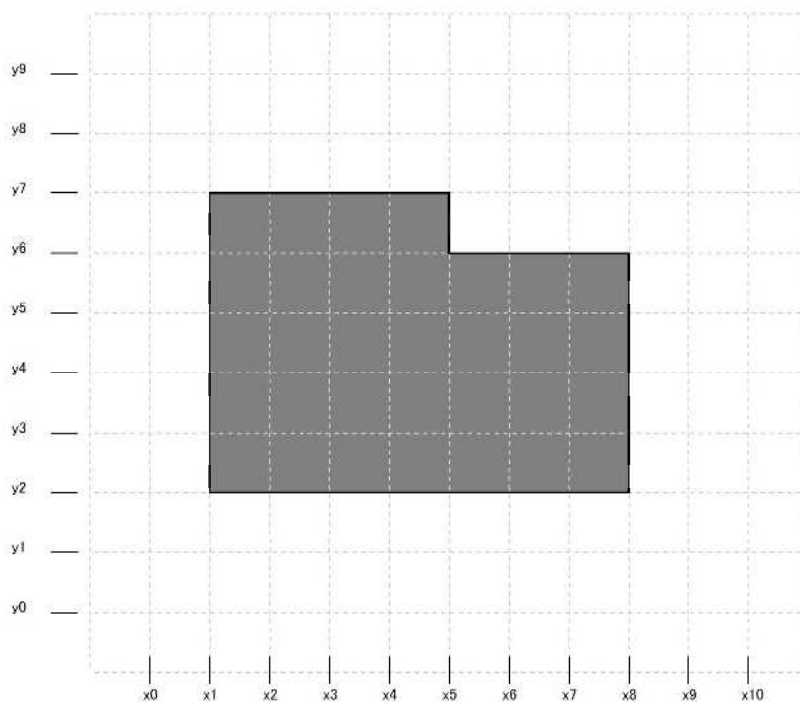
316: ラスボード(7mm)

418: 窯業系サイディング模張

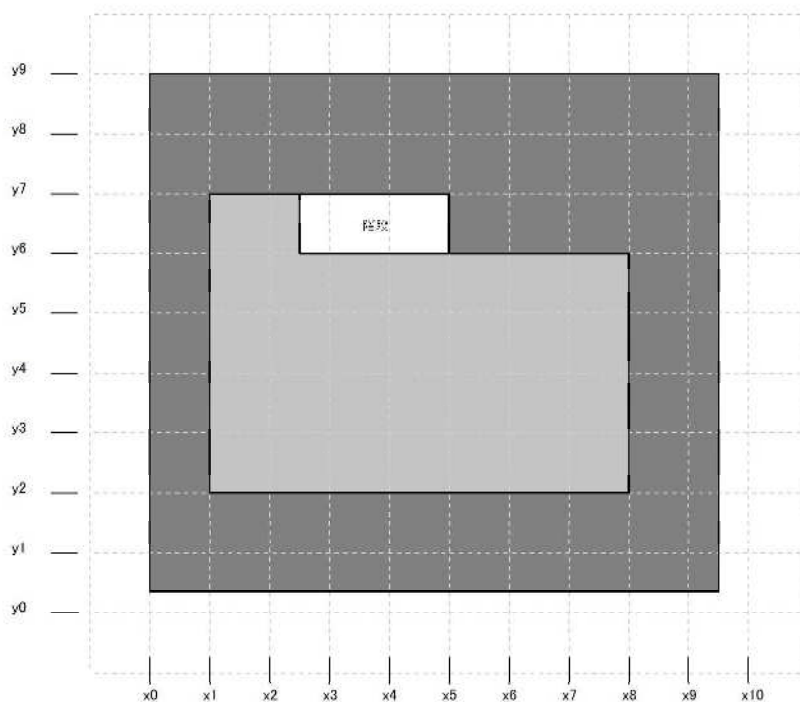
精密診断法1
現状

精密診断法1平面図(平均床倍率) 日付: 2025年07月03日 21:38:25
建物番号: 000504

2階



1階



縮尺 1/110

凡例

床倍率 屋根・下屋 2階屋根: 0.65
1階下屋: 0.38

上階床 2階床: 0.48

吹抜・階段(床倍率0)

部分入力区画(括弧内は床倍率)

※水平構面仕様の内訳は「9.平均床倍率計算表」参照